

## 1. 実況上の着目点

- ① 500hPa 5700m付近で $-12^{\circ}\text{C}$ 以下の寒気を伴うトラフに対応する低気圧が、オホーツク海を東進。500hPa 5820m付近の正渦度移流に対応して、前線が華北～日本海～東北北部にのびている。北日本では、低気圧や前線に向かう下層暖湿気の影響で、雷を多数検知、激しい雨を解析。また、これまでの雨の影響で、地盤が緩んで土砂災害の危険度が高まっている所や増水している河川がある。
- ② 熱帯低気圧が九州の西を北北東進。熱帯低気圧周辺では、対流雲が発達し、活発に発雷、猛烈な雨を解析。



主要じょう乱解説図

## 2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

- ① 21日は、1項①のトラフが北日本付近から千島の東に進む。これに対応して、オホーツク海の低気圧は朝までに千島近海に進んでその後次第に不明瞭になる。また、前線上のキंकが千島の東を北東進し、夜までに低気圧が発生。前線は北日本から日本の東に進んで、気圧の谷が東日本にのびる。22日は、500hPa 5760m付近のトラフに対応して、前線を伴う低気圧が中国東北区を東北東進。23日は、この低気圧が閉塞しながら沿海州付近に進み、閉塞点上に発生する低気圧が発達しながらオホーツク海に進んで、前線が北日本にのびる。低気圧周辺では気圧の傾きが大きくなり、やや強い風や強い風が吹き、波が高くなる所がある。北日本では23日は、強風や高波に注意。
- ② 23日にかけて、500hPa 5940m付近の上空の高気圧が、黄海～本州付近を带状に覆う。地上では、日本の東～日本の南に高気圧が带状に連なる。本州付近はこれらの高気圧に緩やかに覆われて、晴れて気温が上昇し、猛暑日となる所がある。熱中症などの健康管理に注意（熱中症警戒アラート参照）。
- ③ 1項②の熱帯低気圧は、22日にかけて九州付近に進み、23日は気圧の谷となって西日本を東進。
- ④ 前線や低気圧に向かう下層暖湿気や上空寒気の影響で北日本では21日と23日は、熱帯低気圧周辺の下層暖湿気や日中の昇温の影響で西日本では23日にかけて、気圧の谷に向かう下層暖湿気や高気圧縁辺を回る下層暖湿気及び日中の昇温の影響で東日本では23日にかけて、大気の状態が非常に不安定となり、雷を伴い激しい雨や非常に激しい雨が降り大雨となる所がある。土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水に注意・警戒し、落雷や竜巻などの激しい突風、降ひょうに注意。特に、北日本では、これまでの大雨の影響で、土砂災害の危険度が高くなっている所があるため、21日は、土砂災害に嚴重に警戒。また、熱帯低気圧周辺では下層暖湿気が合流し、対流雲が組織化する可能性に留意。
3. 数値予報資料解釈上の留意点 総観場はGSMを基本、量予想や降水分布はMSMやLFMも参考。2項③の熱帯低気圧の予想には不確実性があることに留意。

4. 防災関連事項【量的予報等】 ① 雨量(06時からの24時間)：九州南部150、奄美100mm。② 波浪(明日まで)：高い所(3m以上)はない。③ 高潮(明日まで)：大潮の時期。西～東日本では、注意報基準を超過する所がある。

5. 全般気象情報発表の有無 「大雨と雷及び突風に関する全般気象情報」を5時頃発表する予定。